

9/15

創造学園第27期生ハイキング会(札幌芸術の森)
～卒業生40名が親睦と健康のため、毎月実施



▲自由に楽しく、これからも長く続けたい。

9/24

美園リンゴまつり
(美園会館裏広場)
～リンゴの収穫を祝って



▲真っ赤で大きなリンゴ!?

10/1

サッカー選手の元気のひみつ(区民センター)
～コンサドーレの選手と寮母さんから食事の秘訣を伝授



▶選手もおいしさに太鼓判!

9/30～10/1

自然体験「山小屋に泊まろう」
(中山小屋(北海学園大学所有))

～区内の小学生27名、北海学園大学学生7名が参加

▶わあー、たき火だね。
アウトドアは楽しいね。



10/21

中の島地区交通事故死ゼロ2000日達成記念パレード
(中の島通)
～9月24日に達成したことを記念して



▲次は3000日を目指します!



第42回 「札幌ドーム」の巻

～夢のHIROBA～

建設地は、北海道農業試験場(現在の北海道農業研究センター)の一部(てん菜の研究施設)でした。この付近は、明治三十九年に月寒種牛牧場が設置され、大正八年には日本のめん羊飼育のさきがけとなった月寒種羊場が併置されました。この付近が「羊ヶ丘」という名称になったのは昭和十九年ですが、当時は通称「種羊場」と呼ばれていました。その後、昭和二十五年に北海道農業試験場畜産部となり、昭和四十一年には畜産部以外の組織も羊ヶ丘に移転完了しました。同試験場は、平成十三

今年で五周年を迎えた「札幌ドーム」(愛称「HIROBA」)。サッカーと野球の二つのプロスポーツチームの本拠地であるとともに、いまや札幌が世界に誇る施設のひとつとなりました。

ドーム建設までの道のりは平坦ではありませんでした。「積雪寒冷地に全天候型多目的施設を」と昭和五十六年に建設構想が策定されましたが、建設費用の問題で程なく凍結。その後も、札幌の経済界を中心に検討が進められましたが実現に至りませんでした。具体的に動き出したのは、札幌市が平成十四年のサッカーワールドカップの開催地として名乗りを上げた(平成四年)ことがきっかけでした。

建設地は、北海道農業試験場(現在の北海道農業研究センター)の一部(てん菜の研究施設)でした。この付近は、明治三十九年に月寒種牛牧場が設置され、大正八年には日本のめん羊飼育のさきがけとなった月寒種羊場が併置されました。この付近が「羊ヶ丘」という名称になったのは昭和十九年ですが、当時は通称「種羊場」と呼ばれていました。その後、昭和二十五年に北海道農業試験場畜産部となり、昭和四十一年には畜産部以外の組織も羊ヶ丘に移転完了しました。同試験場は、平成十三

年に現在の名称になっています。ドームの敷地内には多数の樹木やアート作品が点在する庭が整備されており、イベントのない日も市民が気軽に足を運ぶことができます。今年ドーム内にキッズパークという新しい設備もできて、施設の魅力が増えました。

平成十四年六月、建設のきっかけになったサッカーワールドカップが開催されました。三試合でしたが、イングランド対アルゼンチンの注目カードも含まれており、世界中から多くの人が訪れて盛り上がりました。

また、今年ドームでプロ野球パシフィックリーグのプレーオフが行われ、北海道日本ハムファイターズが見事優勝しました。

来年の二月にはいよいよノルディックスキースキ世界選手権札幌大会が開催されます。ドームでは開会式のほか、大会史上初の試みとして、屋内でクロスカントリーなどのスプリント(短距離)競技が行われます。

札幌ドームは、これからもいろいろ「夢」を私たちに与えてくれるでしょう。

